

住職の佛教史

親鸞(四) 關東布教

四年間佐渡に流罪となり流人生活が終った
後、越後にとどまっていたが、後上野国を通り
常陸国に移り二十年間この地で布教活動
を行った

關東に入るとまず下妻の坂井郷に住んだ
永祿十年(一五六七)顕誓が記した

「反故裏書」に「常陸国下妻ノ三月寺ニ三年
ハカリ同箱田ノ郷ニ二十年ハカリ御座ヨササレ
ト記されて、

六十二歳のとき、親鸞は京に上る理由は關東
の門徒たちから神格化されてこのを嫌った
と言われている

京では五条西洞院に移り住むことでの生活
は貧窮と不慮の火災、恵信尼の越後
への帰郷と重なり不幸の連続であった
一説にはこの間の生活を箱田門徒がささえた
と言われている

次回は、続々と親鸞の教えについて

住職に阿

住職の佛教史

親鸞(Ⅱ) 関東布教

四年間、佐渡に流罪となり、流人生活が終わった後も越後にとどまっていたが、後、上野国を通り常陸国に移り二十年間この地で布教活動を行った。

関東に入るとまず下妻の坂井郷に住んだ。

永祿十年(一五六七)顕誓が記した『反故裏書』に「常陸国下妻ノ三月寺二三年ハカリ御座ヲナサレメ」と記されている。

六十二歳のとき親鸞は京に上る。

理由は関東の門徒たちから神格化されていくのを嫌ったと言われている。京では五条西洞院に移り住む。

ここでの生活は、貧窮と不良の火災、恵信尼の越後への帰郷と重なり不幸の連続であった。一説には、この間の生活を稲田門徒が支えたと言われている。

次回は、その続きと親鸞の教えについて

住職 仁阿